



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



西宮ユネスコ協会

西宮ユネスコ

2020.3 第152号

発行所：西宮ユネスコ協会（西宮市六湛寺町3-1 西宮市役所東館 人権教育推進課内 TEL 0798(35)3892・FAX 0798(36)1208）
発行人：古 胡 博 巳 編集人：青 木 弘 子



『一隅を照らす人になろう』

会長 辰馬 章夫

ここ数年、世界的規模で続く異常気象は、多くの人命を奪い、生きものの生態系に悪影響を及ぼしています。自然災害頻発の原因が地球温暖化だとすれば、これは人災です。宇宙から見れば、地球は幾多の生命を育む美しい水の星、狭い地球で争い事をしている暇はありません。自己中心の対立を超え、心の中に平和のとりでを築き、共生の精神で、たったひとつの地球を守りましょう。

「人々の暮らしを保障しながら、平和と地球の環境を守る」。国連に入るすべての国が、2015年にこんな宣言をまとめました。これを実現するためにどう行動するかという具体的な目標がSDGs（持続可能な開発目標）で、2030年までに達成をめざす17の大きな目標が掲げられています。①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩人や国の不平等をなくそう ⑪住み続けられるまちづくりを ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊さを守ろう ⑮陸の豊さも守ろう ⑯平和と公正をすべての人に ⑰パートナーシップで目標を達成しよう。このよう

にSDGsでは、環境・経済・社会をバランスよく成り立たせることを目指しています。食べものを無駄にしない、ごみを減らす、買いものの仕方や使い方を工夫する、節電・節水。クリーンな環境の維持は、あとの人のことを考えるちょっとした心遣いから・・・。「大事を為さんと欲せば、小なることを怠らず勤しむべし」（二宮尊徳）。日常の暮らしを見つめ直すことの積み重ねで、限りなく目標達成に近づけると思います。

「一隅を照らす人になろう」、これは天台宗開祖の最澄伝教大師の教えです。お金や財宝は国の宝ではなく、自身が置かれたその場所で、精いっぱい努力し、明るく輝くことのできる人こそ、何にもかえ難い国の宝であるということです。アフガニスタンで銃弾に倒れられた、NGO ペシャワール会の中村哲医師の行動の原点でもありました。個人、企業、各界諸団体、そしてユ協の草の根活動に励む皆さん、それぞれ1本のろうそく、否ことしはオリンピック・パラリンピックイヤーですので、一本の聖火で、日の当たらない片隅を照らしましょう。一本の灯りは微かでも、寄り集まれば千里を照らす輝きになると信じます。聖火で成果を！

（辰馬本家酒造(株)取締役相談役）

近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 in 大阪に参加して

上田 みどり

2019年度の近畿ブロック・ユネスコ活動研究会は10月5日(土)・6日(日)、歴史的価値のある素晴らしい古墳群が世界文化遺産に登録されたばかりの堺市で開催されました。



1日目午前中に3件の事例発表がありました。

- ① 神戸ユ協「外なる国際化」と「内なる国際化」
神戸ユ協青年部に神戸市内のアジアからの留学生を受け入れ、協会の活動が国際化された。留学生の母国にボランティアに行ったり、国内では子ども食堂を開きベトナムやネパールの料理をふるまって国際交流の場を作り内なる国際化を推進する。
- ② 和歌山ユ協「青年を中心にしたピースウォーク」
世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」を小・中・高生が共に歩き、歴史・文化を学び大自然を五感で感じ、自然の恵みを共感する知的精神的な連携による心の中に平和の砦を築くことを目的としている。
- ③ 箕面ユ協「ユネスコ協会と学校が協働する授業」
東日本大震災の被災地を応援するため現地に行く生徒・先生を支援したり、被災者を迎えた講演会・応援物産展を開いた活動を通じたネットワークを生かして防災学習・国際理解学習をテーマに学校と協働の授業をしている。

午後の分科会、私は世界寺子屋運動分科会に参加しました。

識字率向上のための寺子屋運動。「途上国の経済発展が著しく、先進国と途上国の格差がフラット化している。そのため絶対的貧困が解消され、転換期を迎えているのではないかと話されたのが特に印象に残りました。アジアの経済が豊かになり、各国からの日本への留学生が大幅に増えている。留学生とともに新しい運動を展開するべきではないかという発言がありました。

●●● 研修見学会 ●●●

「茨木市立キリシタン遺物史料館」

八木 紀代子

2019年度研修見学会は10月30日(水)、参加者14名で隠れキリシタンの里を訪ねました。

一般に隠れキリシタンといえば長崎、天草、五島列島などが知られていますが、茨木市の山間地区はキリシタン大名高山右近の支配地であったため、多くの隠れキリシタンが存在したようです。高山右近の時代から300年の時を経て1919年、キリシタン研究家藤波大超が近くの山で“キリシタン墓碑”を発見、1920年には隠れキリシタンであった東家の屋根吹替工事で屋根裏の梁に括り付けてあった箱(あけずの櫃)が見つかり、中には現在国の重要文化財となっている“聖フランシスコ・ザビエル像”や“聖マリア十五玄義図”“十字架入りの短刀”などが発見されました。

「キリシタン遺物史料館」は、茨木市街地から13キロ以上も山奥の東家隣接地に1987年開館しまし



た。館内では茨木市職員による説明を聞きながらDVDや貴重な品々を拝見できます。当館のザビエル画像はレプリカで、実物は神戸市立博物館にあり、そのいきさつも実に興味深いものでした。

拝観後は史料館からさらに山道を15分ほど登ったところの里山センターに到着、絶好の遠足日和のもとでのお弁当開きとなり楽しい一日を過ごしました。

◇◇◇ 国際理解講座 ◇◇◇

「多文化理解・多文化共生社会」

2019年度国際理解講座(西宮市国際交流協会・西宮市教育委員会・西宮ユ協共催)は2月15日(土)、西宮市役所東館8F大ホールで開催されました。

今回は「多文化理解・多文化共生社会をめざして!」と題して、莊司幸子氏(伊丹ユネスコ協会会長)に講演していただきました。

伊丹ユネスコ協会は、中国からの帰国者残留孤児とその家族の支援を目的として、1986年(S61)からユネスコ日本語教室を開始されました。莊司氏は旧満州のお生まれで、11歳まで奉天市(現在の瀋陽市)で生活、戦後多くの困難を乗り越えご家族で

帰国されました。それだけに日本語教室への思い入れも特別なものがおありと推察され、以後35年間継続してかかわっておられます。

教室は、ユネスコ会員と一般市民のボランティアで運営されているのが特長です。文化や生活習慣の違いで理解の難しさもありながら、違いを認め合い、互いに尊重しあう多文化共生社会の実現を目指していると話されました。

昨年4月、「出入国管理法」(入管法)の改正で外国人労働者としてベトナムや中国からの在留外国人が急増しており、「日本語教室」の重要性は伊丹市だけでなく西宮市でも高まっています。

坂田記念セミナー

史跡『いましろ大王の杜』見学

2019年度の坂田記念セミナーは11月27日(水)、大阪府高槻市にある今城塚古墳、今城塚古代歴史館を見学しました。

今城塚古墳は、古墳時代後期の6世紀前半に築造されたもので、古墳の被葬者は形状や埴輪などの年代的特徴、それに「古事記」「日本書紀」など文献資料の検討から、歴史研究家の間では日本の第26代継体天皇の墓だと考えられています。しかし、宮内庁は今城塚古墳から西へ1.3キロにある大阪府茨木市の「太田茶臼山古墳」を継体天皇の陵墓と定めているため、規制なく立ち入ることのできる極めて珍しい古墳となっています。もっとも、古墳自体は過去の大地震や、戦国時代に三好義継や織田信長の前線基地になったこともあって昔の形はなく、現在は古墳公園として整備され、この古墳の特徴である家、人物、動物など200点以上の埴輪が再現されています。

古墳公園に隣接する今城塚古代歴史館には、今城塚古墳を含む三島古墳群の発掘調査によって出土した埴輪などが展示されているほか、ジオラマ模型や映像などもあり、ボランティアガイドさんの懇切な説明もあって大変有意義な見学会でした。



世界遺産シリーズ

「長崎と天草地方の 潜伏キリシタン関連遺産」

大前 繁雄

昨年10月の「茨木市立キリシタン遺物史料館」の研修見学会に参加したのもそうであるが、私は江戸時代の厳しい禁教下で信仰を守り抜いたいわゆる“隠れキリシタン”に大変興味を持っている。きっかけは、10年ほど前に遠藤周作氏の大作『沈黙』を読んで衝撃を受けたことである。耐えられないような厳しい迫害を受けているにもかかわらず、一切救いの手を差しのべず“沈黙”を守り続ける神をなお信じ続ける信仰集団の存在に、強く惹かれたからであった。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されたのは2018年の6月であるが、私がこれらの地域を訪ねたのは2011年の10月上旬、パシフィックビーナス号というクルージング船による4泊5日のツアーであった。丁度『沈黙』を読了したすぐあとに旅行案内が届いたので、何はさておきと参加を申し込んだのである。



五島市久賀島の浜脇教会

クルージングによる旅の利点は、宿泊所の心配なしに離島の目的地を巡れることである。とくにこのツアーの主たる目的地である長崎県の五島に点在する教会群—明治になって信徒発見を契機として、カトリックに復帰した集落に建設された教会群—は他のどの交通手段よりクルージングが適している。

五島の港に到着すると、下船して待機している小型バスに分乗し各集落の(現在も日常的に宗教活動が営まれている)教会堂を一つ一つ見て巡るのであるが、どの教会も個性的で美しく禁教・迫害・潜伏といった陰鬱な言葉とは程遠いのだかさであった。

同じことは天草の原城跡でも感じた。島原の乱を伝える立派な歴史資料館を見学しながら、この地であの凄惨な攻城戦が展開されたとはとても想像できなかったのである。紙幅の関係でこれ以上詳細を伝えられないのが残念であるが、機会があれば、世界遺産決定後のこれらの地をぜひ再訪し改めて報告したいと願っている。

同じことは天草の原城跡でも感じた。島原の乱を伝える立派な歴史資料館を見学しながら、この地であの凄惨な攻城戦が展開されたとはとても想像できなかったのである。紙幅の関係でこれ以上詳細を伝えられないのが残念であるが、機会があれば、世界遺産決定後のこれらの地をぜひ再訪し改めて報告したいと願っている。



事務局だより

☆新年理事会・懇親会開催

2020年の新年理事会・懇親会は1月25日(土)、ホテルビューイット甲子園で開催されました。理事会では辰馬会長が議長となり、2019年度中間の活動報告、会計報告、2020年度の活動計画案が審議され了承されました。午後からは一般会員の皆さんも交えて懇親会が開かれました。辰馬会長の挨拶、溝端弘雄常任理事の乾杯の音頭で会食、楽しい語らいとビンゴゲームなどにより和やかなひとときを過ごしました。

☆西宮国際交流デー開催

第24回西宮国際交流デーは2月9日(日)、フレンテ西宮4F・5Fで開催されました。外国人留学生による日本語スピーチ大会、民族音楽パフォーマンスなど、様々なイベントが行われ大いに盛り上がりました。西宮ユ協も例年通りバザーに参加しました。



☆ユネスコ世界児童画展開催中止

毎年3月に開催されている「ユネスコ世界児童画展」は、新型コロナウイルスによる影響で今年中止になりました。西宮市内の幼稚園と小学校、西宮市の友好都市であるフランスのアジャン市やアメリカのスポークン市から今年も多くの子画が寄せられていました。残念ながら児童画展は、来年に持ち越しとなりました。

☆2020年度総会開催します。

2020年度西宮ユネスコ協会総会は5月16日(土)、西宮市職員会館3F大ホールで開催されます。総会後のミニコンサートは、筑前琵琶の演奏会、曲目は平家物語から那須与一、琵琶と朗読による小泉八雲の怪談・耳なし芳一などを演奏していただく予定です。多くの皆様のご出席をお待ちしています。

●●● 新 入 会 員 ●●●

普通会员 楠本 史子 〒662-0047 西宮市寿町

協会日誌

2019年10月～
2020年3月

- '19.10.5 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会
～6 (堺市総合福祉会館)
- 10.30 研修見学会
「茨木市立キリシタン遺物史料館」
- 11.9 「にしのみや ふるさとウォーク2019」
(御代開公園～六湛寺公園)
- 11.15 阪神間ユネスコ協会連絡会②
(伊丹アイフォニック小ホール)
- 11.27 坂田記念セミナー「史跡・いましろ大王の杜」
(今城塚古墳、高槻市立今城塚古代歴史館)
- '20.1.9 英語教室 第三期開講 (プレラ4F)
- 1.20 文楽鑑賞 (国立文楽劇場)
- 1.25 新年理事会・懇親会
(ホテルビューイット甲子園・レオンバークの間)
- 2.9 第24回西宮国際交流デー
(フレンテ西宮4F・5F)
- 2.15 国際理解講座
(西宮市国際交流協会・市教委・西宮ユ協共催)
講演 「多文化理解・多文化共生社会
をめざして！」
講師 荘司幸子氏 (伊丹ユネスコ協会会長)
(西宮市役所東館8F大ホール)
- 3.6 阪神間ユネスコ協会連絡会③
(アステ川西市民プラザ)
- 3.31 会報152号発行
- 今後の催しの予定 —
- '20.4.2 英語教室 第I期開講 (プレラ4F)
- 5.16 2020年度通常総会・会員懇親お茶の会
- 6.9 研修見学会
- 7.4 第76回日本ユネスコ運動全国大会
(山口県宇部市)
7. 阪神間ユネスコ協会連絡会①
8. みんなく探検
- 9.4 英語教室 第II期開講 (プレラ4F)
9. 第41回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業
9. 第48回ユネスコチャリティーバザー
- 9.末 会報153号発行
- 10.17 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会
(西宮市民会館)